

社会科シラバス 高校1年

1. 学習の到達目標と評価の観点

(科目) 歴史総合	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	2単位	第1学年	『わたしたちの歴史 日本から世界へ』山川出版社(教科書) 『問いからはじまる歴史総合』東京法令出版(図説)
学習の到達目標	・地域の別にかかわらず、人間を取り巻く環境や背景、現代的な諸課題の形成過程について、近現代史の考察や資料の読み取りを通して真理を追究していこうとする姿勢や、得られた知識・技能を実社会に役立てようとする意欲を養う。〔Science〕 ・世界全体を俯瞰するグローバルな視点と地域の問題を掘り下げて把握するローカルな視点を併せ持つ柔軟な思考力を養い、それに関する自分の考えや価値観を世界に向けて発信できるとともに、国際社会の中で自身に求められている役割を認識する。〔Global〕 ・探究心を持ち、物事を論理的にとらえ、現在世界各地で起きている問題を歴史的な視点から読み解き、よりよい解決策を導き出す。また、その解決策を実行するために、他者の意見を尊重しながら協働し、平和な世界を築く人間になる。〔Liberal Arts〕		
評価の観点	現代的な諸課題が「いつ」「どこで」「どのようにして」生じたのか、疑問を持ち、知識を活用し、他者と協働しながら、その疑問を解決しようとする姿勢がある。＜主体性・多様性・協働性＞		
	日本の歴史と世界の歴史を学びながら、それぞれの出来事を比べたり、たがいのつながりや影響を探究し、自分の考えを発信することができる。＜思考力・判断力・表現力＞		
	現代的な諸課題の形成過程について考察したり、資料を読みとるために必要な知識・技能を身につけられている。＜知識・技能＞		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの
 B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
 C：「努力を要する」状況と判断されるもの
 D：未提出、未実施

2. 学習内容及び評価方法

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
一 学 期 中 間	第一部 近代化と私たち 1 18世紀の世界とアジア 2 産業革命 5 日本開国期の国際情勢 7 市民革命と国民統合 ★スタディーサブリ 「ベーシックレベル歴史総合」 【近世編】第1講 アジアの繁栄と近世の日本 【近代編】第2講 欧米の市民革命と産業革命	○18世紀以降の世界が、近代化とともにグローバル化を進展していく動向を考察する。 ○アジアの諸地域で繁栄したそれぞれの帝国の社会・政治・経済体制が、ヨーロッパ諸勢力の進出とどのように関連づけられるのか理解する。 ○思想・政治・経済それぞれの側面において、ヨーロッパ諸国がアジアに先んじて近代化を成功させたことを理解する。	・アジアにおける国際秩序の中核を成していた各帝国の発展がヨーロッパ諸国にどのような影響を与えていたのか説明できる。 ・産業革命や市民革命がヨーロッパにおける近代化にどのような影響を与えたのか説明できる。
一 学 期 期 末	第一部 近代化と私たち 3 アヘン戦争と日本 4 日本の開国 5 日本開国期の国際情勢 6 開国後の日本社会 8 明治維新 9 富国強兵と文明開化 ★スタディーサブリ 「ベーシックレベル歴史総合」 【近代編】第3講 アジア諸地域の変化と日本開国 【近代編】第5講 近代日本の確立	○ヨーロッパの国々が、その圧倒的な経済的優越性を背景としてアジア諸国を圧迫するという展開を理解する。 ○ペリー来航をきっかけに新たな国家体制を模索した幕末の動乱についてその過程を理解する。 ○開国をきっかけに混乱する日本の経済状況について、世界との交易という視点で理解する。 ○近代国家を目指す日本と、その目標となったヨーロッパとの関係を理解する。	・アヘン戦争がアジアにもたらした影響を説明できる。 ・なぜペリーが日本に来航したのか、世界の中の日本像を意識しながら説明できる。 ・混乱する日本の状況から「尊王攘夷」思想について説明できる。 ・近代国家を目指す日本政府の政策について説明できる。
二 学 期 中 間	第一部 近代化と私たち 10 日本の明治初期の外交 11 大日本帝国憲法の制定 12 日本の産業革命と日清戦争 13 帝国主義 14 日露戦争と韓国併合 ★スタディーサブリ 「ベーシックレベル歴史総合」 【近代編】第6講 帝国主義の発展	○欧米諸国を目指して変容する日本について、18世紀の欧米諸国と比較しながら考察する。 ○大日本帝国憲法と明治期の帝国議会の特徴について、現代との比較を行いながら理解する。 ○帝国主義の台頭がその後の世界情勢に与えた影響と展開について理解する。 ○日清・日露戦争における日本の勝利が東アジア情勢にどのような影響を与えたのか理解する。	・日本が国境を画定する経緯について、国民国家の視点から説明することができる。 ・英仏を中心とするアジア・アフリカを巡る列強の植民地獲得競争について、説明できる。 ・朝鮮を巡る日清・日露の対立についてその目的と経過を説明できる。
二 学 期 期 末	第二部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1 大衆運動の芽ばえ 2 第一次世界大戦 3 第一次世界大戦と日本 4 ロシア革命とその影響 5 社会運動の広がり	○「大衆」について、当時生産・消費されていたものから理解し、大衆運動について考察する。 ○第一次世界大戦前後の政治・経済・大衆について、その変容	・第一次護憲運動について、民本主義の思想を絡めて説明できる。 ・第一次世界大戦が大衆に与えた影響について、女性の社会進出

	6 国際協調 7 アジアの民族運動 8 大量生産・大量消費社会 ★スタディーサプリア 「ベーシックレベル歴史総合」 【近代編】第7講 第一次世界大戦とロシア革命 【近代編】第8講 民主主義的風潮 【現代編】第9講 国際協調体制 【現代編】第10講 戦間期の大衆化	を、各地域ごとに理解する。 ○第一次世界大戦前後の政治・経済・大衆の変容から、社会主義の思想を理解する。	の面から説明できる。 ・ロシア革命の経緯について説明することができる ・戦勝国が賠償金の支払いを厳格に求めたことについて、第一次世界大戦の特徴と関連づけて説明できる
学期末	第二部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 9 世界恐慌 10 独裁勢力の台頭 11 日本のアジア侵出 12 第二次世界大戦 13 第二次世界大戦と日本 14 第二次世界大戦の終結 ★スタディーサプリア 「ベーシックレベル歴史総合」 【現代編】第11講 経済危機と第二次世界大戦	○第一次世界大戦後の国際秩序の問題点が、第二次世界大戦に展開することを理解する。 ○第二次世界大戦の特徴を第一次世界大戦と比較して理解する。 ○第二次世界大戦後の社会について、現代の諸課題とむすびつけて考察する。	・世界恐慌が各国に与えた影響を説明できる。 ・日本の政治の主導権について、軍部の行動から説明できる。
評価の観点及び内容			評価方法（具体例）
教員の発問に対し、積極的に取り組んでいる。周りのクラスメイトと主体的に意見の交換をする様子がみられる。＜主体性・多様性・協働性＞			loilo 課題(提出)
設定された課題に対する自分の考えを、他者にも読み取れるように適切に説明することができる。＜思考力・判断力・表現力＞			定期考査, loilo 課題(内容) 夏休みレポート課題
歴史的な知識を身につけられている＜知識・技能＞			定期考査, loilo 課題(内容)

★スタディーサプリア動画はやや内容が詳しいものになっているので、流れなどを確認するなどでの活用が望ましい。

【成績評価の概要について】
(1)学期における評価の対象 ①各学期に実施する定期考査（80%） →概ね8割の配分で評価素材とする。 ②授業冒頭に取り組むロイロ課題（ロイロゲーム機能のテスト） ③単元の確認のために取り組む論述ワーク（ロイロ提出箱に提出） →平常点(授業内取り組み、提出物等)として概ね2割前後を評価材料とする。 ④夏休みレポート課題（大学入試における総合問題形式を意識した内容） →提出があれば基礎点の25点は加点する。提出期限は2学期最初であるが、年度末までに提出があれば、最低限の加点を反映させる。
★定期考査未受験の場合、試験実施後に、ロイロから該当生徒に対して試験問題を送り、期日までの提出があれば、参考素材として素点化(ただし欠席得にならないよう考慮する)し

成績に反映させる。提出がない場合は、定期考査は0点となり、②③のみの要素で評定算出が可能な場合は学期評定をつけるが、算出が難しい場合は、学期評定は空欄となる場合がある。ただし、公欠による試験欠席の場合はこの限りではない。欠席による未受験の考査提出は、年度末まで設けるので、当該学期での提出ができなかった場合でも、年度末までに提出ができれば学年評定には反映される。

(2)学期評定の算出方法

学期ごとに、上記(1)を総合して評価を行う。

一部、論述課題などについては、〔①文章展開／②条件設定／③文字表現／④表現力〕などの観点を設け、ルーブリック評価をしたものを点数化する。授業時間内の提出を基本とし、授業後の提出に関しては基礎点のみの加点とする。

(3)学年評定の算出方法

①定期考査(年間5回)

②ロイロによるゲーム機能テストへの参加

③授業単元確認のための論述課題

④夏休みレポート課題